

第 38 回技術士全国大会（東京）/創立 60 周年記念大会 開催報告

日本技術士会は、8月26日（金）、東京都千代田区の経団連会館で「第38回技術士全国大会（東京）/創立60周年記念大会」を開催しました。記念式典では、秋篠宮さまがご臨席され、東日本大震災の復興支援や国際活動に対する日本技術士会の活躍に期待の言葉を述べられました。

式典の冒頭、運営委員長を務める高橋修前会長が「今回の記念式典と全国大会は会員だけでなく一般の人にも関心を持ってもらえるような内容にした。こうした取り組みを通じて技術士のこれからの役割を考えていきたい。」と挨拶があり、続いて内村会長が「技術士の認知度と地位向上のためにも自ら社会的な責務を果たす必要がある。」と述べ、次の世代に活動を引き継ぐためにも「英知を結集し、改革に取り組む。」と次の60年に向けた決意を表明されました。

なお、大会前日の25日には「第8回技術者倫理研究事例発表大会」と「第7回全国防災連絡会議」が、また大会翌日の27日には「青年技術士の集い」と「テクニカルツアー」が開催され、全国各地から450名（中国本部から20名）の会員が集結しました。

公益社団法人 日本技術士会 中国本部
事業委員長 大田 一夫

日本技術士会のホームページでの開催報告と御礼（下記 URL 参照）

http://www.engineer.or.jp/c_topics/001/001346.html



写真1 .「防災支援委員会 山口豊副委員長による防災会議報告」の様子

歓迎の挨拶

日本技術士創立60周年記念大会
第38回技術士全国大会（東京）

大会運営委員長 高橋 修

秋篠宮殿下のご臨席を賜り、各界から多くのご来賓の方々をお迎えして、全国からご参加の技術士の皆さまとともに、ここに公益社団法人日本技術士会の創立60周年記念大会・第38回技術士全国大会をかくも盛大に開催できますことを感謝し、心から歓迎を申し上げます。

創立60周年を記念する本大会は、「地球再生へのメッセージ」を基本テーマに、広く世界から、振興著しいアジアから、発展する日本から、各エリアにおいて、それぞれの技術士が地球再生に向け、何をし、何ができ、何をしなければならないのか、その果たすべき役割を具体テーマに設定し、約2年前から準備をすすめてきました。

準備段階においては、世界人口の増加による人類存続問題のみならず地球生物の生存基盤そのものへの懸念、地球環境問題における温暖化ガス排出量の規制、2012年京都議定書の期限切れなど、地球規模の再生化は世界共通の課題でありました。

本年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震は、その規模が世界最大級であったことに合わせ、巨大津波により広範かつ甚大な被害となり、またそれに起因して原子力発電所が緊急事態に至るなど未曾有の災害になりました。東日本大震災により被害を受けられた皆さまに謹んでお見舞い申し上げます。日本技術士会は、「防災会議」を設置し、文部科学省、国土交通省、経済産業省と協力しつつ、本会挙げて復旧・復興への技術的な協力・支援を展開しております。

また、日本技術士会は、予て公益社団法人に向けての認定申請中でありましたが、本年3月29日付で公益認定を受け、4月11日晴れて「公益社団法人日本技術士会」として登記致しました。

このような社会環境の変化の中で開催する、創立60周年記念大会・第38回技術士全国大会は、会員に向けた効果的な情報提供と、広く社会に向けた情報発信を融合した大会運営を基本に4つの特徴付けをしました。一つは、慣例となっていた複数の分科会形式を変更し、技術士の具体的活動事例は1会場での発表とポスターセッション、組織活動事例はパネル展示発表とするなどの工夫をしました。二つは、ここにご参加の皆さまも含め、国民にとって重大な東日本大震災の復旧・復興状況と、その技術的な支援活動について“東日本大震災に日本技術士会はどう動いたか”と題して防災会議から報告します。三つは、広く開かれた大会を目指し、理工系学生や若手技術者の皆さまはもとより一般の方にも参加しやすい大会とし、アンコール遺跡調査研究の第一人者である石澤良昭先生から「アンコール・ワットの謎に挑戦」という興味深いテーマで記念講演をして頂きます。四つは、大会テーマに基づき“技術の歴史を振り返り、現代の技術・設備を確認し、未来技術への技術士の役割を考える”を目的に、防災を体験し、首都東京の新しいシンボルである東京スカイツリーを見学するテクニカル・ツアーで締めくくるとしました。

この第38回技術士全国大会が、創立60周年記念大会にふさわしく、また参加者の皆さまにとって有益な体験となることを願っております。技術士会会員の皆さんは、今こそ、これまでに培った豊富な技術経験と英知を結集して新たな日本復興へ向け、ご活躍されることを望んでおります。最後になりますが、本大会の開催にあたりまして、ご後援・ご協賛をいただきました関係各機関をはじめ、ご支援・ご協力いただきました関係各位に厚く御礼申し上げ、歓迎の挨拶とさせていただきます。

創立60周年を祝う

公益社団法人 日本技術士会 会長 内村 好

秋篠宮殿下ご臨席のもと、多数のご来賓および会員の皆様のご参加により、創立60周年記念大会・第38回技術士全国大会が盛大に開催できますことに、心から感謝申し上げます。

戦後まもない1951年6月、技術の力で新しい日本を創ることを目指した技術者達によって本会は産声を上げました。その際、欧米の‘コンサルティング・エンジニア’を新しく「技術士」と訳して呼ぶことになりました。遅れること6年、関係者の努力によって1957年に技術士法が制定されました。翌年には第1回の技術士試験が実施され、これまでに21部門7万人を超える技術士が誕生しております。この間の行政機関、産業界における関係者の皆様のご支援と技術士各位のご努力に対して改めて御礼と敬意を表します。

2000年の技術士法改正によって、技術士は国際的整合性が図られ、多様な職種 of 技術者の資格となりました。しかしながら我が国の科学技術の発展やその産業利用のためには技術士がより広範な技術者の資格として、社会で一層活用されることが重要です。また、そのための技術士の絶対数は、いま以上に増えることが必要であると言えます。技術士制度や試験についても先進的に取組まなければなりません。今後、文部科学省はじめ関係行政機関のご指導とともに技術士自らが改革の姿勢で臨むことが肝要です。

日本技術士会は、技術士法に基づく指定機関として技術士の試験と登録を的確に行うとともに、技術士の責務とされた継続的な研鑽の実施ならびに技術士の一層の活用を図ることを役割としています。本会の会員はこの6月に1万4千人を超えました。会員の半数は地域本部に属するなど、活動は全国に拡がり、地域に根ざした活動の活性化が進んでおります。また、総括本部や技術部門ごとの部会との連携を図るための組織作りや情報交換も盛んとなっております。技術士の社会的認知と地位の向上を目指すためには、社会に対する戦略的情報発信とともに技術士自らがその責務を果たすことが不可欠です。本年3月には倫理綱領を新たに制定しました。その前文には「技術士は、科学技術が社会や環境に重大な影響を与えることを十分に認識し、業務の履行を通して持続可能な社会の実現に貢献する」と謳っております。

これまで多くの技術士の方々によって築き上げられてきた60年の「伝統」を尊重するとともに、科学技術の進歩や社会の変化にも対応した次の60年へ向けての「革新」にも取り組んでまいります。本年4月に公益社団法人に移行し、装いも新たな門出を果たした日本技術士会の一層の発展を願って記念すべき創立60周年を祝したいと思います。

最後になりましたが3月11日の大震災による大津波の被害や原子力発電所の事故は、被災地のみならず我が国の社会経済に対して大きな衝撃を与えました。科学技術の発展は人類に大きな恵を与え、災害の軽減にも貢献してきましたが、東日本大震災によって多数の尊い人命と貴重な財産が失われたことを、技術者として真摯に受け止めなければなりません。その上で、復旧・復興とともに次の世代へ引き継ぐ新たな社会の構築に英知を結集してゆくことを決意しております。日本技術士会としても大地震直後に設置された防災会議を軸として、各組織において復旧・復興への取組みを進めております。被災地が一日も早い復興への道をたどることを願いたします。